



地域と『つながり合う』授業実践

I 地域交流 「麻機太鼓」

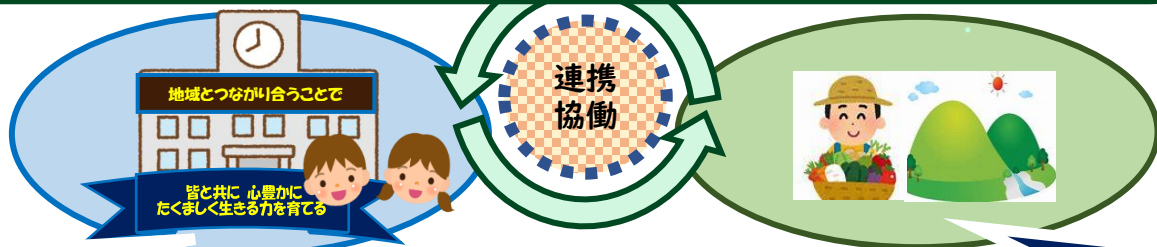
実践グループ：中学部 自立2グループ

生単「みんなでうたおう！ みんなでたたこう！ みんなにみせよう！ ドンドンヤー！」

音楽「太鼓をたたいて音を出すこと」を発展させ、大輪祭単元の一環として、麻機地区で伝統的に継承されている「麻機太鼓」を専門的に学ぶ外部講師を活用する授業実践をしました。

当日、生徒は迫力のある太鼓の音と振動を感じることで「喜び」や「驚き」の表情を見せたり、発声や手拍子でリズムをとったりしていました。

本時の授業で「本物」にたっぷり触れた生徒は意欲と技術を高め、大輪祭当日には、保護者や仲間の前で太鼓を立派に披露しました。



児童生徒にとっての価値

「本物」に触れることで、興味をもって聴く・感動する等の豊かな心を育てたり技能を高めたりできる。

太鼓の音に気付き親しむことで、地域の楽しいお祭りをイメージでき、今後、地域の行事への参加も期待できる。

地域にとっての価値（期待される）

児童生徒に太鼓の技を披露することで、「やりがい」を感じていただける。障害のある子供や学校での取組の理解につながるとともに、教育活動（学校運営）の中の役割を担っていただける。*参画につながる。

『つながり合う』POINT！（地域支援連携課から）

授業の中であるテーマを扱うとき、校内の資源だけでは十分でないと感じることがあります。その道のプロの力を借りることで、児童生徒は本物に触れ、そのテーマに関する質の高い学びから、「生きる力」を身に付けることができます。

中教審答申(H27.12.21付)の中でも、未来を創り出す子供たちの自立や社会参加を目指し、「生きる力」を育むために、学校と地域との連携・協働を推進するという点が示されています。

麻機地区には、豊かな自然(モノ・コト)、麻機自治会(ヒト)が存在します。地域支援連携課では、本校とつながり合える地域資源を求めて、情報発信をしていきたいと思っています。また、本校の「地域」は、麻機地区だけでなく、静岡市や児童生徒の居住地を含むことから、この地域にある資源を活用した授業実践を推進することで、子供たちの「生きる力」を育てていきます。

自立2グループの授業実践後、講師からは、「子供の太鼓をたたく姿を見ることができて感動した」「障害のある子供たちの様子が分かった」という感想を受けています。

本実践では、地域のヒトの心を動かすこともでき、自立2の生徒（学校）と麻機太鼓のヒト（地域）とがつながり合えたと言えます。